

人形浄瑠璃



①淡路人形座の竹本友庄さん指導による太夫の練習。
②人形遣いの練習はとても楽しそうでした。
③人形解説の後、実際に体験しました。左は解説した淡路人形座吉田史興さん。

清和 小学校

次代を担う子どもの 文化芸術体験事業

6月29日、清和小学校で、淡路人形座(兵庫県)の人形浄瑠璃を学ぶワークショップが行われました。これは、文化庁の「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」です。この事業は、文化芸術団体を派遣し、一流の文化芸術を体験することで、子どもたちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図るために行われており、今年度は清和小学校が対象となりました。12月3日に淡路人形座の公演が清和小学校で開かれます。

江戸時代のはじめに成立した伝統芸能、人形浄瑠璃。プロの劇団として残る兵庫県淡路島の淡路人形座は、最も高度に発展した人形劇として世界にも認められています。太夫や人形遣いの研修、清和文楽館での特別講演など、清和文楽保存会との交流もあります。

この日のワークショップでは、清和小学校の4年生と5年生が、まず人形浄瑠璃の基礎知識

を学びました。その後、生徒代表3人が人形遣いを体験、思うように動かない人形に苦戦していました。

続いて、太夫と人形遣いに分かれて練習です。太夫の語り体験では、「生朝顔日記 大井川」を、人形遣いは、1人で人形を操る「えびす舞」です。事前に渡されていた映像と床本(台本)で予習を重ねてきた児童は、太夫の独特の言い回しにもすぐ慣れて、床本を見ながら「いねいに台詞を読んでいた。人形遣いの練習では、えびす様にお酒をつぐ仕草などを、熱心に繰り返していました。

12月の本公演では、淡路人形座と共演する予定の4・5年生の児童。それまでに練習を重ねて、本番では見事な太夫と人形遣いぶりをみせてくれることでしょう。人形遣いの練習を終えた藤永凌くんは「今日は楽しく練習できたけど、本番は緊張しそうです」と話していました。



元気いっぱい!

御所・小峰のへき地保育所が合同運動会

御所へき地保育所と小峰へき地保育所は6月23日、第35回となる合同運動会を開きました。会場となった中央体育館に、御所・小峰の2つのへき地保育所の26人の園児が集合、一日中、明るく元気な声が館内に響きました。

かけっこや技巧走、園児全員でのダンス、おじいちゃん、おばあちゃんとの大玉転がしや玉入れなどの競技が行われました。

3月に島木へき地保育所が閉所し、今回は2つの保育所の合同運動会となりました。参加人数は減りましたが、園児の笑顔と元気は毎年変わりません。園児たちは最初から最後まで元気いっぱいの姿を見せ、会場に訪れた保護者の方々の表情はゆるみっぱなしでした。

- ① 一生懸命踊ります。(こども八木節)
- ② おじいちゃん・おばあちゃんと玉入れで競いました。
- ③ 大好きおばあちゃんと力を合わせます。(大玉転がし)
- ④ 私の踊りを見て!(全園児によるダンス)
- ⑤ ⑥ 全園児が出場したかけっこ。観客席から大きな声援。
- ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ 技巧走。平均台を渡ったり、山を越えたり。保護者と行う競技もあり、一緒に楽しんでいました。

